

今後の小高小学校・小高中学校のあり方について

協議事項 1 再編校の学校種

事務局案 再編校の学校種については「**施設一体型の義務教育学校**」とします。

理由

令和3年4月より「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」として運営してきましたが、「南相馬市第三次教育振興基本計画」が目指す「未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生きぬく子ども」の育成と「南相馬市公立学校適正化計画」が目指す「互いに学び合い、高め合うなど切磋琢磨する教育環境」の充実を図るため、これまでの小高小学校・小高中学校の9年間を通じた学びを更に充実させることを目指すため、小高小学校と小高中学校を再編し、新たに義務教育学校を設置するのが望ましいと考えます。

なお、未就学児を含む保護者意識調査では、在籍児童保護者から7割以上（70.5%）、在籍生徒保護者から9割以上（90.9%）、未就学児保護者から7割以上（76.5%）、全体として7割以上（77.5%）の方より「賛成」「どちらかという賛成」との回答がありました。

○小高小学校・小高中学校の小中一貫教育の取組みの成果及び課題

小高小学校・小高中学校の小中一貫教育を実施している中で、最も効果が高いのが英語です。毎年実施している市学力調査では、これまで全国平均正答率を下回っていたものの、小中一貫校としての連携を進める中で徐々に全国平均正答率との差が小さくなってきており、令和6年度には、中学1年生及び2年生の正答率が全国平均正答率を上回る結果となりました。これは小学校からの英語の取組の効果が出ているものと捉えています。

小高小学校では、英語の音と文字の関係性を楽しく学ぶことができるフォニックス学習を令和4年4月より導入していること、また、外国語学習の時間には、中学校の英語科教員による授業を実施していることから、低学年のうちから英語学習の素地が育っているものと考えます。その結果、外国語の授業において英語での問いかけや指示にスムーズに反応する様子が見られるほか、外国からの来客に積極的に話しかけようとするなど、英語を聴き取り理解する力や英語によるコミュニケーション力の向上が見られます。

また、小高中学校においては、他校に先駆けて小学校でフォニックス学習を学んだ生徒が進学してきていることや体験型英語学習施設である東京グローバルゲートウェイ（略称：T

GG)での英語研修の実施により、英検（実用英語技能検定）を全校生徒が受検するなど、英語の学習意欲も高い状況です。

学校生活の面から見ると、小高小学校の児童は小高中学校に進学するため、各行事や授業を通じて小・中学校の教職員が連携することは、子どもたちの安心感にも大きく繋がるものであると考えます。

一方で、隣接しているものの施設一体ではないことから、乗り入れ授業に制限が生じたり、異学年交流の機会が限定されるなどの課題もあります。